

<h1>一年学年だより</h1>	No. 12	3月号
	令和3年3月1日	
	1年学年主任	

明日に向かい今を生きる

3月になりました。君達が松山中央高校1年生と呼ばれるのもあとわずか。あと1か月で2年生になります。入学後すぐの自宅学習から分散登校へ。その後、ようやくみんなで登校することができる高校生活が始まり、高校生活のリズムをつかむことに苦労していた君達も、もう2年生になるのですね。この1年で経験した楽しいことも、うれしいことも、つらいことも、悲しいこともすべてが成長の糧となっているはずです。1学期の頃、ずいぶん大きく見えた2年生の背中。君達はその先輩方同様、大きく成長できましたか。4月には期待に胸膨らませた新1年生がやってきます。大きく成長した2年生として、学習面はもちろん、学校行事、部活動等で中央高校の中心となり、1年生に君達の大きな背中を見せてくれることを望みます。

「明日に向かい今を生きる ああ松山中央高校」校歌です。君達は入学以来、校歌を全体で歌ったことのないという今までの高校1年生にない経験をしている高校生です。例年、入学後のオリエンテーションで歌唱練習があり、始業式や終業式、運動会や野球応援、いろいろな行事で何度も校歌を歌い、知らない間に全員が校歌を覚える。これがこれまでの高校生だと思います。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、学校行事での校歌斉唱はすべて校歌静聴になり、校歌は歌うものではなく、静かに聞くものとなったこの1年。君達のうち、何人が校歌を覚えているのだろうか心配しています。こんなところにまで新型コロナウイルス感染は影響しているのですね。

校歌には、創設当初、その学校に係った方々の熱い思いが込められているものだと思います。その熱い思いは中央高校の校歌にも込められているはずです。「久遠の理想 高き夢 抱きて共に伸びゆかん」「心と体 健やかに 厚き友情はぐくまん」「自立の心 培いて 広き世界にはばたかん」。校歌を通して君達に中央高校でこのように育ってほしいという、校歌を作成された方々の思いが込められているのだと思います。そのような校歌を大きな声で歌うことができる。私はそれが中央生の魅力のひとつと感じていたのですが。

本館西側の1階から2階への階段にある黒板には創立記念賛歌のぞみの歌詞が書かれています。創立1年目の昭和62年6月25日、この賛歌が発表されたようです。中央高校の校歌が決定したのはこの後の3月11日。つまり、この賛歌のぞみは一期生にとって、校歌のない1年間、校歌の代わりとして歌われていたもうひとつの校歌だったのでしょうか。1期生にとっては大切な歌であったと想像されます。また、3月に校歌が決定したとき、1期生は自分達の高校の校歌ができたことがうれしかっただろうし、決定後、すぐに校歌を覚え、4月にはその校歌を大きな声で歌って2期生を迎えたのでしょうか。そして、その校歌を大切にし、心を込めて歌ってこられたのではないのでしょうか。

君達が卒業し、みんなで集まる機会があったとき、その会の最後には、高校時代を思い出しながら、みんなで肩を組んで校歌を歌う。そんな機会もあるはずです。同窓会の定番です。ウィズコロナの時代、まだまだ校歌は静聴かもしれませんが、いつか校歌斉唱になったとき、君達が大きな声で堂々と校歌を歌えるようになるために、校歌の意味を考えながら、しっかりと覚えて2年生になってほしいと思います。さあセントラルガイダンスを開いて、歌詞にもう一度目を通してください。

長いようであつという間に過ぎていく高校生活3年間の3分の1が終わろうとしています。高校卒業後、君達はどんな新たなスタートを切って、どう過ごしていくのだろうか。そして君達の5年後は、10年後は…。その時々君達が君達らしくあるために今を大切にしてください。2年生になっても、高校生活を通してたくさんを経験し、人間として成長してほしいと思います。さあ1年生最後で有終の美を飾り、また背筋を伸ばしてリスタートする2年生に向けて、しっかりとした準備をしましょう。明日に向かい今を生きる君達の姿を見えています。